

■競技注意事項(T&F の部) 5/13現在

1. 競技規則について

本大会は 2023 WA Competition & Technical Rules、2023 年度日本陸上競技連盟競技規則、競技会における広告および展示物に関する規程、並びに本大会申し合わせ事項に従って実施する。

2. 招集について

- (1) 第一次招集は、マラソングート（ヤンマースタジアム長居）に設ける招集所にて行う。番組編成にある本人の組・レーンを確認し、ナンバーに○をつけること。その際、選手本人がユニフォームを着用した状態で集まり、胸アスリートビブス・腰ナンバーカード・競技使用予定シューズ、商標の確認を受けて招集完了とする。招集所内には 10 分前から入場可能とし、確認後は招集完了時刻まで招集所内に待機することとする。
- (2) リレー競技の第一次招集は、出走者 4 名全員が受けること。その際に、アスリートビブス・商標・同一ユニフォームであるかを確認する。
- (3) リレーオーダー用紙は、第一次招集完了の 60 分前までに TIC へ提出すること。リレーオーダー用紙を提出しなかった場合、そのチームは欠場とみなす。（「3. 欠場について」参照）
- (4) リレーチームの編成は、必ず当該リレーチームでエントリーしている者が 2 名以上含まれていなければならない。決勝も同様である。
- (5) リレーオーダー用紙提出後の選手変更は、本大会の医師、医務員の判断がない限り認められない。この規則に従わなければチームは失格となる。ただし、100mH, 110mH の予選に出場した選手は 4×100mR 予選において、200m 準決勝に出場した選手は 4×400mR 予選において、第一次招集開始時刻までオーダーの変更を認める。変更する場合、指定の用紙に必要事項を記入し TIC に提出すること。
- (6) 同一時間に 2 種目以上出場する競技者、および競技中のため他の種目の第一次招集を受けられない競技者は、第一次招集完了時刻までに重複出場届を TIC に提出すること。
- (7) 重複出場届を提出した場合も、必ず本人または代理人が第一次招集を受けなければならない。その際、重複出場届の控えを持参すること。
- (8) トラック競技に出場する競技者には、腰ナンバー標識（2 枚）を招集時に配付する。なお、5000m・10000m 及び 10000mW ではトランスポンダー付きの腰ナンバー標識を使用するので左腰につけること。トランスポンダー付きの腰ナンバー標識は、レース終了後に回収する。
- (9) 重複届を提出した代理人は第二次招集に参加し、出発係にその旨を報告し本人が来るまで責任を持つこと。
- (10) 招集は、招集所にて下記の通り行う。

種 目	第一次招集		第二次招集
	招 集 開 始 時 刻	招 集 完 了 時 刻	招 集 完 了 時 刻
トラック競技	競技開始 30 分前	競技開始 20 分前	競技開始 10 分前
跳躍種目(棒高跳以外)	競技開始 60 分前	競技開始 50 分前	競技開始 30 分前
投 擲 種 目	競技開始 50 分前	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
棒 高 跳	競技開始 90 分前	競技開始 80 分前	競技開始 60 分前

- (11) リレーオーダー用紙・重複出場届・当日欠場届・混成競技途中棄権届はマラソングート付近に設置する TIC にて配布する。

3. 欠場・選手変更について

- (1) 5 月 21 日（日）正午までに事前欠場者届を関西学連までメールにて提出すること。
- (2) 当日欠場は原則として認めない。やむを得ない場合に限り、当該種目の競技当日に、当日欠場届を当該種目の第一次招集開始時刻までに TIC に提出することで欠場が認められる場合がある。

- (3) 当日欠場届には、監督および本人のサインを記入すること。ただし、大会当日に監督が不在の場合は、事前に監督代行届を提出している場合のみ、申請した代理人の署名を認める。
- (4) リレー競技の当日欠場についても上記の手続きを満たし、第一次招集完了 60 分前（リレーオーダー用紙提出締切時刻）までに当日欠場届を提出すること。
- (5) 混成競技において途中棄権する場合は、必ず混成競技係に申告の上、混成競技途中棄権届を早急に TIC に提出すること。
- (6) 当日欠場届未提出およびコール漏れ（現地招集を含む）については、1 件につき所属大学の総合得点より 1 点の減点を行う。また、リレー種目についても（オーダー用紙未提出含む）同様に 1 チームにつき所属大学の総合得点より 1 点の減点を行う。

4. 競技者の服装について

- (1) 同一大学は、事前に学連に提出した同一のデザインのユニフォームを着用すること（提出したユニフォームと異なれば出場を認めない）。これはリレー競技に限らず、すべての種目について適用する。提出したものと異なる形状のユニフォーム（トップスとショーツ、ハーフタイツなど）を使用する場合も、色・デザインを統一させること。
- (2) 競技会における広告および展示物規程により、競技場内で着用できる衣類等に掲出できる製造会社名/ロゴ、スポンサー名/ロゴの大きさ、数については、HP 掲載の別紙『競技会における広告および展示物に関する規程〔国内〕』を必ず確認すること。違反した場合にはテープ等でマスキング処置を行う。
- (3) アスリートビブスは必ず本大会用のアスリートビブスを使用し、ユニフォームの胸部および背部に折り曲げたりせずに明瞭につけること。ただし、跳躍競技においては胸部または背部の一方だけでよい。
- (4) 全てのトラック競技の腰ナンバーカードは右腰に明瞭につけること。ただし、1500m 以上からは両腰につけること。腰ナンバーカードは招集所にて配布する。
- (5) 混成競技の各日最終種目の腰ナンバーカードは、現地招集時に現地にて受け取ること。
- (6) 本大会は TR5.2 ルールを適用し、規格外のシューズ使用は全て禁止とする。

5. 競技用器具について

- (1) 使用器具は原則として競技場備え付けのものを使用すること。ただし、個人所有のやり・砲丸・円盤の使用を希望する場合は、競技開始の 90 分前から 60 分前に検査を受けて許可を受ければ、使用することができる。検査はフィニッシュ側用器具倉庫で行う。ただし、検査時間が開門以前となる場合には、第 1 ゲート前にて検査を行う。
- (2) 棒高跳用ポールは、各自が持参したものを使用すること。

6. 混成競技について

- (1) 別紙「混成競技申し合わせ事項」に従うこと。競技時間の遅れなどは、アナウンスで連絡する。

7. トラック種目について

- (1) 計時について、トラック競技の計時は写真判定（0.01 秒）とする。ただし、装置に故障等のトラブルが生じた場合、手動計時（0.1 秒）とする。
- (2) 5000m・10000m・10000mW に関しては、制限時間を設ける。各レーススタート後、次に記載している時間の経過時点で残り 1 周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。

			5000m	10000m	10000mW
男	子	1 部	17 分	34 分	55 分
男	子	2 部	17 分	36 分	55 分
女	子		20 分	40 分	60 分

- (3) 5000m 以上の競技において気象状況により給水を行う場合がある。

- (4) 救急搬送防止および選手の安全確保のため、関西学連役員が競技者の体調を見て、医師または医務員と協議のうえレースを中止させる場合がある。その場合、必ず指示に従うこと。

8. フィールド種目について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目	種別	ピット	試技開始	備考
走高跳	1部	A	1m90	2m10 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
	2部	A	1m85	2m05 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
	女子	A	1m55	1m70 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
	十種	A	1m70	1m85 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み
		B	1m45	
七種	A	1m25	1m60 まで 5cm 刻み、以降 3cm 刻み	
棒高跳	1部	A	3m80	5m00 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
	2部	A	3m60	4m80 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
	女子	A	2m80	3m60 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
	十種	A	3m20	4m00 まで 20cm 刻み、以降 10cm 刻み
		B	2m20	

- (2) 走高跳・棒高跳の練習の高さは当日、選手と審判員の協議により設定する。また、悪天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長・関西学連の協議により設定の高さを変更し競技を行う場合がある。

※混成競技においては、混成競技申し合わせ事項を参照すること。

- (3) 競技者が1人となった場合のバーの上げ方は、本人の希望により決める。ただし、2つのピットに分かれている場合は、両ピットを通じて1人になった場合に限る。
- (4) 三段跳の踏切板の位置は、男子は13m、女子は11mとする。
- (5) 走幅跳（混成競技含む）及び三段跳の踏切判定には、ビデオカメラを使用する。（粘土板は使用しない）
- (6) 棒高跳の公式練習を行う際はゴムバーを使用する。
- (7) 投てき種目の公式練習は2回までとする。ただし、ハンマー投は1回とする。
- (8) 現場の審判員が許可を与えた上でコーチ席（HP掲載別紙参照）にアドバイスを聞きに行くことができる。しかし、審判員の指示に従わない場合は、選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務・関西学連等で協議し対処する。（競技規則 TR6.2）

9. 対校得点について

- (1) 各種目の対校得点及びボーナス得点は下記の通りとする。なお、ボーナス得点は1選手につき全ラウンドを通じて1回限り、該当する最大得点のものを与えるものとする。

【対校得点】

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
対校得点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

【ボーナス得点】

日本新記録	30点	日本タイ記録	25点	日本学生新記録	20点
日本学生タイ記録	15点	関西学生新記録	10点	関西学生タイ記録	7点
大会新記録	5点	大会タイ記録	2点		

- (2) 総合得点が同点の場合は、優勝種目数の多い大学を上位とする。優勝種目数が同じ場合は2位種目数の多い大学を上位とし、以降3～8位まで同様に比較する。以上の点で同じ場合は同順位とする。
- (3) エントリー時点で出場が3大学以下または7名以下となった種目については得点対象としない。

10. 抗議の申し立てについて

- (1) 競技の結果または競技実施に関する抗議は、結果が正式に発表されてから、同一日に次のラウンドが行われる場合は15分以内に、それ以外の場合は30分以内に、その競技者あるいはチームの監督が口頭で審判長に申し出なくてはならない。(競技規則 TR8. 2-3)
- (2) 審判長の裁定に不服な場合は、文章と委託金1万円を添えてジュリーに上告する。この抗議はジュリーが即決し、その結果は最終的なものとなる。(競技規則 TR8. 7-11)
- (3) 抗議受付はTICに設ける。必要用紙に記入し、行うこと。

11. 悪天候の際の対応

- (1) 競技の実施が不可能となることが予想される場合には、関西学連会長・ヘッドコーチ・競技委員長・事務局長・幹事長と陸協等で方針を協議する。
- (2) 中止種目の得点は、どの大学の対校得点にも加算しない。
- (3) 対校戦として成立するには、対校種目数の4分の3以上(男子1部23種目のうち18種目以上、男子2部22種目のうち17種目以上、女子22種目のうち17種目以上)の決勝の実施が必要となる。対校戦として成立しない場合には、1部と2部の入れ替えも行わない。
- (4) 中止となった種目のエントリー料の返金は行わない。

12. その他

- (1) 記録の正式発表は電光掲示にて行う。
- (2) 事前欠場者の人数により、番組編成を変更する場合がある。
- (3) 競技場内へ立ち入る際、競技場保護のためヒール等の底の固い靴は一切禁止し、アップシューズもしくはスニーカーで入場すること。学生審判・補助員も同様とする。
- (4) 競技者は競技区域内にビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を持ち込めない。(競技規則 TR6. 3.2)
- (5) 注意事項及び学生競技者としてのマナーを逸脱した行為などが見受けられた場合、その学生の所属する大学の以降の競技を中止させ処罰を与える。
- (6) 大会期間中に疑問な点があれば、大会本部まで申し出ること。

関西学生陸上競技連盟